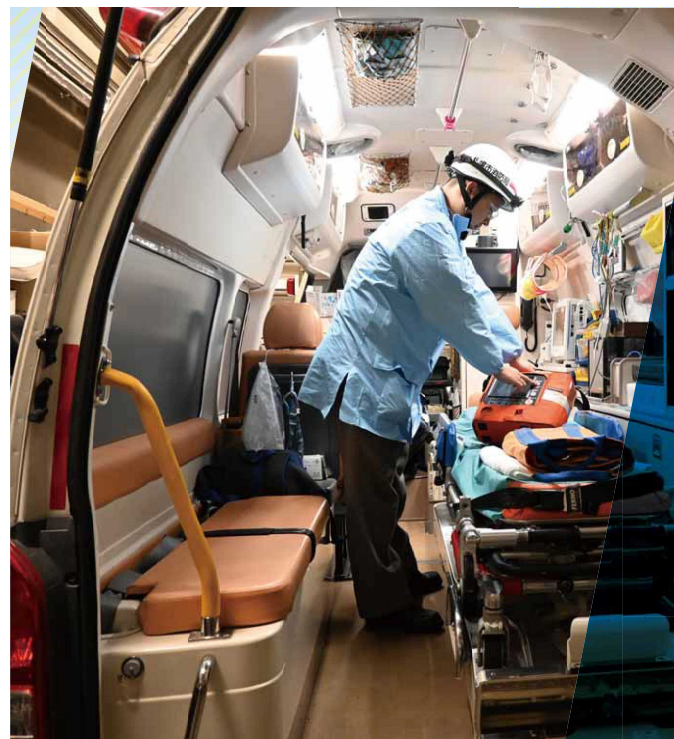


救える命を守るために

近年、増加傾向にある市内での救急出動。今回の特集では、限りある救急車の適正な利用方法や、これからの季節に注意したい熱中症への対策を紹介します。

詳細 救急課 ☎215-2070



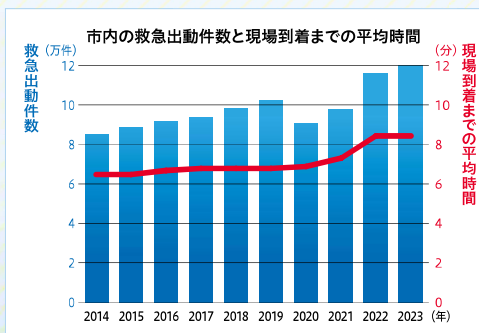
救急出動件数は増加傾向

昨年の市内の救急出動件数は、11万9872件で過去最多に。10年前の2014年と比べて約3万件増えています。高齢者人口の増加などの影響もあり、件数は今後も増える見込みです。

現場到着までの時間も増加傾向

救急出動件数が増えていることで、現場の近くに救急隊があらず、離れた場所から現場に向かわざるを得ない場面が増えたことなどにより、救急隊の出動から現場に到着するまでの平均所要時間も増加傾向です。2014年は6分30秒でしたが、昨年は8分24秒と約2分も増えています。

このまま所要時間が増え続けると、救えるはずの命を守れなくなってしまう可能性が出てきます。



約4分に1回
出動

命を守るために

救急隊の体制を強化

救急隊から病院に、搬送患者の情報を共有するアプリを2月に導入。より早く正確に患者の情報を伝え、搬送する病院を速やかに決定できるようにすることで、搬送にかかる時間を短くして、次の出動に備えています。また、4月から救急隊を1隊増やし、現在は36隊が稼働しています。



アプリを導入

救急隊を1隊増加

中には救急出動に 適さない要請も

救急搬送される方のうち、約半数は入院の必要がない軽症の方です。また、明らかに救急車の利用に適さない、緊急性が低い要請をする方もいます。救急車を要請する場合は、緊急性を考えて、適正に利用することが大切です。

救急課 湯浅職員

出動できる救急車や、通報を受ける電話回線には限りがあります。一刻も早く救命処置が必要な方のためにも、救急車を呼ぶべきか迷った時は、まずは#7119（救急安心センター さつぽろ）などに連絡して、救急車を正しい方法で利用していただきたいと思います。

実際にあった 緊急性が低い要請の例

- ・紙で指を少し切ってしまった
- ・お酒を飲んでしまって運転できない
- ・病院に行った方が良いのかアドバイスが欲しい

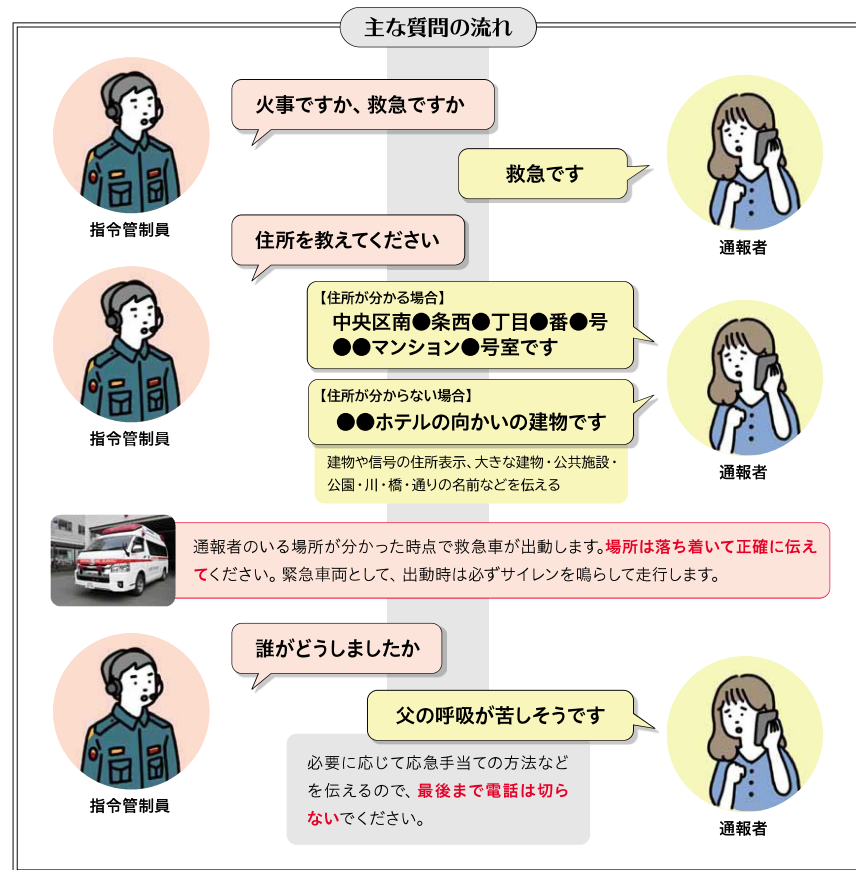
#7119
って何？

次のページでは… 救急車の正しい呼び方を知ろう

2

119 に電話し、救急車を要請

電話口での質問に対して、落ち着いて答えてください。



AED（自動体外式除細動器）を使う時は

AEDは、心停止状態の心臓に電気ショックを与えて、正常な収縮に戻す医療機器です。反応がない方がいたら、まずは、周りの人と協力し、**119** への電話とAEDの準備を行ってください。

＜使用手順＞

- ① AEDを専用ボックスから取り出す
→ 警報ブザーが鳴っても問題ありません
- ② AEDを患者の頭の近くに置き、
ふたを開けて、音声案内に従って操作する
- ③ 必要な方にのみ、電気ショックが流れる



1

救急車を呼ぶべきか判断する

急な病気やけがで 救急車を呼ぶか迷ったら

救急安心センターさっぽろ

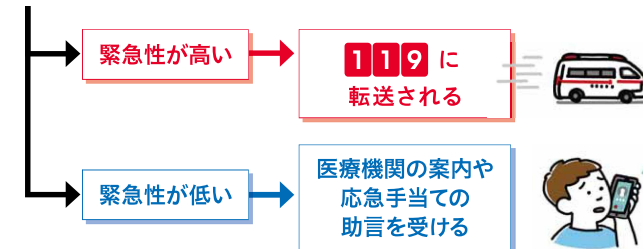
7119 に電話

ダイヤル回線、IP電話は ☎272-7119。
聴覚に障がいがあるなど電話が難しい方は
FAX 241-7331
※21の外国語にも対応

24時間365日、看護師が救急の医療相談に応じます。緊急性が高い場合は **119** に転送するので、判断に迷う場合はまずはご相談ください。また、夜間や休日に受診できる医療機関も案内しています。

病気やけがの状態を伝える

※現在患っている病気や薬の飲み方などの一般的な相談はかかりつけ医などに相談を



以下のいずれかに当てはまる時は、 ためらわずに **119** に電話を

- ・意識がない(返事がない)、もうろうとしている
- ・ろれつが回らない
- ・突然、片方の手足に力が入らなくなる
- ・急な息切れや呼吸困難
- ・頭、腹、胸、背中が突然激しく痛む
- ・広範囲のやけど など

救急車を呼ぶ目安
を詳しく紹介

ホームページ



救急電話相談窓口は他にも

●産婦人科救急相談電話
☎290-3299 (毎日19時～翌日9時)
妊産婦の方が、急な病気や具合が悪い時に相談できます。

●精神科救急情報センター
☎204-6010
(平日17時～翌日9時。土・日曜、祝・休日は24時間)
精神に関する緊急な医療相談ができます。

本当に必要な人が
使えるように

救急車の正しい利用を



いざという時のために知っておいてほしい、救急車の正しい利用方法を紹介します。

これからの季節は
特に注意

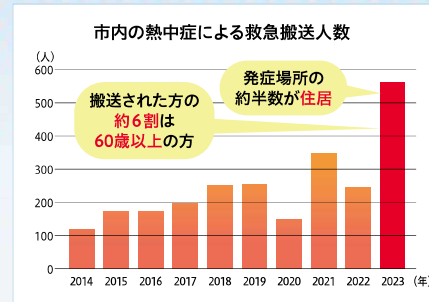
熱中症への対策



時に命を脅かすこともある熱中症。
気温が高くなる時期に、特に行ってほしい対策を紹介します。

熱中症による 救急搬送が増加

昨年は、過去最多となる562人が熱中症で搬送されたほか、市内で観測史上最高となる36.3℃を記録しました。市内の平均気温は上昇傾向にあり、暑さへの対策が一層重要です。



熱中症とは どんな状態？

熱中症とは、高温多湿の環境に長時間いて体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態をいいます。特に、体温調節機能が十分でない高齢者や子ども、自分で症状を訴えられない場合がある障がいのある方などは注意が必要です。

熱中症の症状

軽度： 目まい、立ちくらみ、筋肉痛 など
中程度： 頭痛、嘔吐、倦怠感 など
重度： けいれん、真っすぐ歩けない、意識障害 など

救急課 阿波職員

涼しいイメージがある札幌では、熱中症対策がついおろそかになってしまう方もいるかもしれませんが、近年は市内でも厳しい暑さを観測する日が増えています。また、水分が不足すると、熱中症だけでなく脳梗塞などの危険性も高まります。自分だけは大丈夫だと思わず、しっかりと対策することが大切です。



熱中症の危険度を 発信しています

気象庁と環境省から、熱中症の危険性が極めて高くなると予測された場合に「熱中症（特別）警戒アラート」が発表されます。また、一定以上の暑さ指数やアラートが発表された時は、市公式LINE（1ページ）でも情報を発信します。情報を基に、熱中症を予防する行動を取りましょう。

暑さ指数	注意事項
危険 (31以上)	高齢者は安静状態でも発症する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動
嚴重警戒 (28以上31未満)	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意
警戒 (25以上28未満)	運動や激しい作業をする時は定期的に十分な休息を
注意 (25未満)	発症の危険性は低いが、激しい運動や重労働時には発症の危険性がある

35以上
熱中症
特別警戒
アラート

33以上
熱中症警戒
アラート

暑さ指数の詳細や
発表されている
アラートの情報
(環境省)



「熱中症環境保健マニュアル2022」（環境省）を加工して作成

熱中症に ならないために

屋内・屋外（共通）

- 喉が渇いていなくても水分を小まめに、塩分は適度に取り
- 通気性の良い服を着る
- 保冷剤や冷たいタオルなどで体を冷やす

屋内



無理な節電はせず
熱中症予防を忘れない

屋外

- 日傘や帽子を着用
- 日陰や風通しの良い場所で休憩
- 暑くて天気の良い日は、日中の外出をできるだけ控える

熱中症が疑われる人が いる場合は

「大丈夫ですか」などと大きな声で呼びかけます。

呼びかけに答えない・
自力で水が飲めない

119
に電話

呼びかけに答える

〈応急手当てをする〉

※自分が熱中症の可能性がある場合も
下記の手当てをしましょう

- 冷房が効いている屋内や風通しの良い日陰など
涼しい場所へ運ぶ
- ベルトを緩めたり靴を脱がせたりするなど、服を緩める
- 冷たいペットボトルや氷を入れた袋などで
太い血管が通る場所を冷やす



- 経口補水液や食塩水など、水分と塩分を取らせる



応急手当講習を 開催しています

乳幼児と大人のそれぞれの心肺蘇生方法やAEDの使い方、喉に異物が詰まった人への手当ての方法、止血の方法などを学びます。

時間 1回3時間（消防庁による応急手当WEB講習を受講済みの方は2時間）ほか。日時の詳細はホームページなどでご確認を
会場 白石消防署（白石区南郷通6北）、清田消防署（清田区平岡1の1）
対象 市内に居住が通勤、通学している小学5年以上の方 各回30人
費用 無料
申込 ホームページ、電話。6月開催分は随時、7～9月開催分は6/11頃から、10～12月開催分は9/10頃から、来年1～3月開催分は12/10頃から
応急手当講習運営事務局 ☎090-5861-7881へ。先着

ホームページ



一人でも多くの救える命を守るために、限りある救急車を適正に利用することや熱中症を自身で予防することを心がけてみませんか。